映像工夫館展 テーマ2

アニメーション
Theme 2—ANIMATION

1995年9月29日金—1996年3月29日金

月曜日休館（月曜日が祝日または振替休日の場合はその翌日） 年末年始(12月28日～1月4日)

東京都写真美術館
東京都目黒区三田1-13-3 〒153
TEL.(03)3280-0031(代表) FAX.(03)3280-0033

午前10時—午後6時/木・金曜日は午後8時まで(入館は閉館の30分前まで)

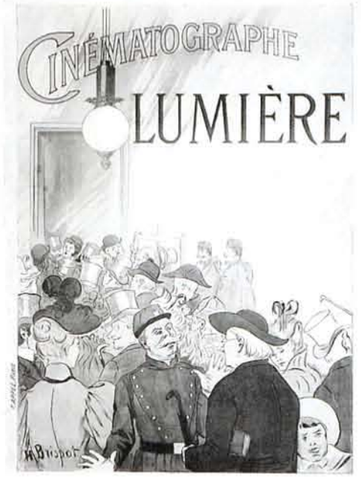
主催＝東京都写真美術館

観覧料＝一般・大学生500(400)円　高・中・小250(200)円
( )内は20名以上の団体料金　常設展示室の観覧料を含む。

展覧会のお問い合わせはハローダイヤル03(3272)8600へ

MUSÉE GRÉVIN

エミール・レノ（レイノー、1844-1918年）の
テアトル・オプティーク（光の劇場）公演ポスター



リュミエール兄弟による最初の映画公演（1896年）の
ポスター（アンリ・プリスポ）

プラクシノスコープ劇場（エミール・レノ製、1879年以降）

絵を動かす文化の歴史

映像の歴史のなかで、動画の発見と発明がどれだけ重要なことであったかは、この「映像」という呼びかたが、一般的には（映画やビデオなど）動画を意味することばとして使われていることからもあきらかでしょう。つまり静止画としての「写真」と、それに対する動画としての「映像」という使われ方においてです。

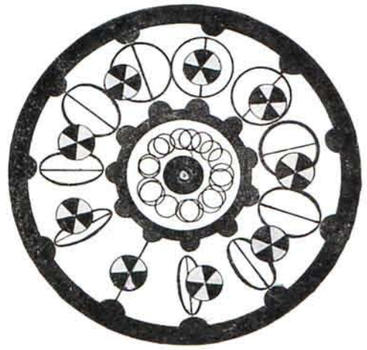
もちろんアニメーションとは、アニマ＝生命を吹き込むことをいうのであって、単に画を動かすことをのみ言っているのではありません。ですが、なにをもって生命を吹き込むというのかと言うと、それは、その始まりにおいて、やはり画を動かすことによってであったのです。

この展覧会は、動画の歴史と現在を紹介することで、そのあたりの問題を明らかにしつつ「アニメーション」という言葉で呼ばれている文化のすべてをとらえなおすことを目的として企画されました。

また、それら過去に出現した映像の工夫の数々は、興味をもつ映像作家の手によって、しばしば現代においてもなお有効なアイディアとして作品の中に生かされています。

同時に開催いたします作品展では、そのような現代の作品をご覧いただくことで、文化としての「アニメーション」について更に理解していただけるだろうと考えています。

なお、会期中には展覧会に関連した講演会、上映会、ワークショップを予定しております。



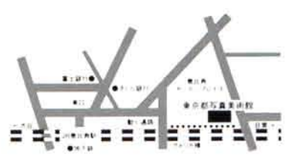
ジョゼフ・プラトー（1801-83）によるフェナキスティスコープ

キノーラ（ミュートスコープの1種）イギリス・ロンドンのボンド会社製

ウィリアム・ホーナー（1786-1837）の
ゾートロープ（ゾーイトロープ、ディダリウム）

フェナキスティスコープ（ストロボ・スコープ、驚き盤）

上映会（無料・定員200名）
日時＝未定/土・日曜日を予定
会場＝東京都写真美術館　1階ホール
上映予定作品
「おかしな顔のユーモラスな面相」スチュアート・ブラックトン(1906年)
「ファンタスマゴリー」エミール・コール(1908年)
「恐竜ガーティ」ウィンザー・マッケイ(1909年)
「グリスタルイセーション」たむらしげる／「GADGET」庄野晴彦 ほか



交通機関＝JR恵比寿駅東口より徒歩7分（恵比寿ガーデンプレイス内）
お車でのご来館はご遠慮ください

講演会（無料・定員200名）
日時＝1995年10月29日(日)午後3時—5時30分
会場＝東京都写真美術館　1階ホール
講師＝西嶋憲生

こどものためのオリエンテーリング（無料）
日時＝1996年3月23日(土)/24日(日)・午前(往復はがきにて申込・各15名)
会場＝東京都写真美術館　1階創作室

ワークショップ「驚き盤をつくる」（無料）
日時＝10月～12月の毎週日曜日・午後（当日受付・20名まで）
会場＝東京都写真美術館　地下1階学習室

東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography
東京都目黒区三田1-13-3 〒153
TEL.(03)3280-0031(代表) FAX.(03)3280-0033